

有珠山

○2000年新山からの放熱率の時間変化

2005年に設けた定点（図1）において、氷箱熱流計測法（IBC法, Terada et al., 2008）を用いた放熱量観測をほぼ1年ごとに繰り返している。図2に示すように、2006年以降、放熱率は明らかな低下傾向を示し、2009年4月23～24日の測定から求められた放熱率は、2006年に較べて1/5～1/10にまで減少した。2000年新山地域では、噴気温度の低下や植生回復が進行しており、噴火直後の2000年10月頃から2006年にかけて発達した西山噴気地は、現在、衰退しつつある。

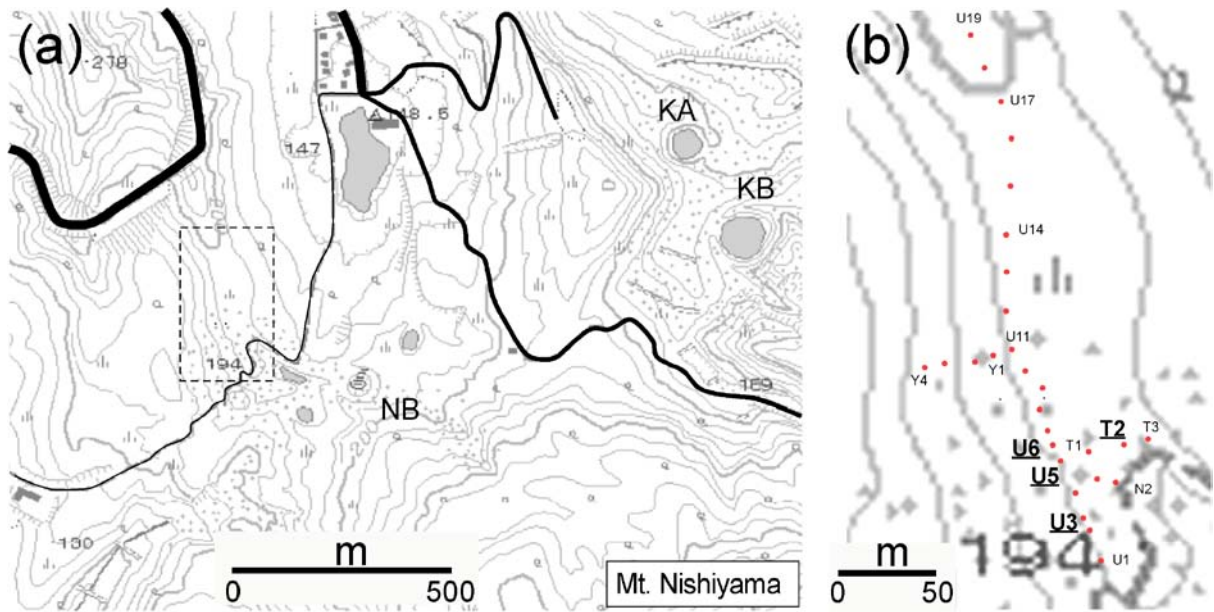


図1. (a) 西山火口群周辺の地形図および、(b) IBC観測点の位置。本地図の範囲は(a)に破線の矩形で示した。

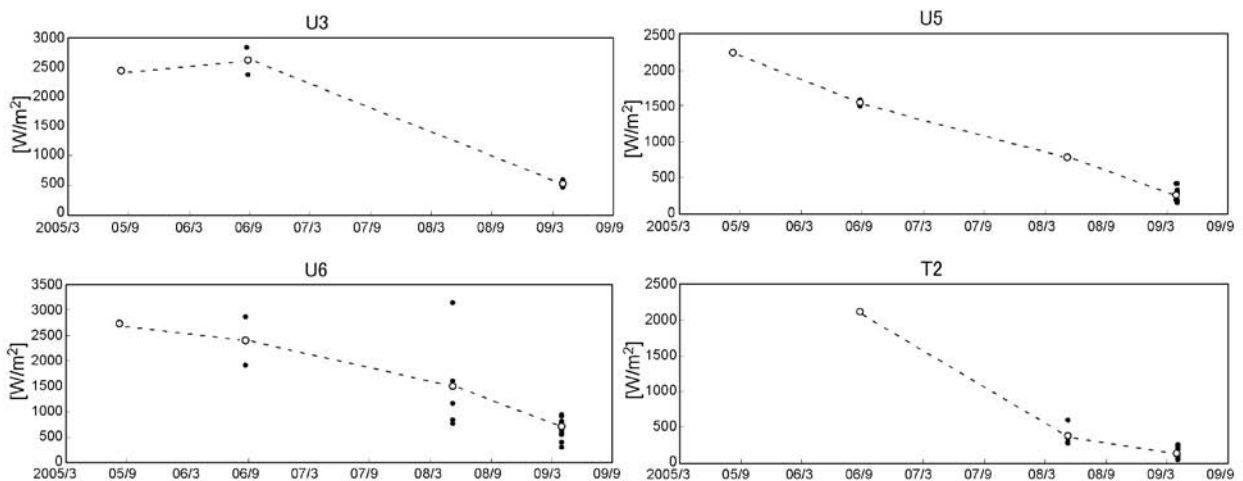


図2. IBC法で計測した、U3、U5、U6およびT2（図1参照）における放熱率の時間変化。同一箇所でも複数回測定した値を黒丸、その平均値を白丸で示している。